

## 2025 年度 JCII 標準化調査事業研究発表会開催

### 開催要旨

弊機構では国・公共団体、業界団体等の専門家による「標準化調査研究企画委員会」を設置し、産業界から標準化が求められているテーマを設定して、新たな標準となるプラスチックの評価方法の開発を目指してこれまで長きにわたり調査研究に取り組み、その成果を発表しております。今年度は、標準化調査研究の 2 つのテーマについて発表いたします。

申込方法の詳細につきましては、弊機構 HP (<https://www.jcii.or.jp/>) を参照下さい。

### 開催プログラム

開催日時：2026 年 3 月 18 日（水） 13:30～15:00

開催方式：Web セミナー方式（Zoom Webinar）

参加費：無料（要事前登録）

### 発表内容

#### 発表 1 「ポリ乳酸(PLA)の耐候性処方と促進劣化後の生分解性についての検討」

講演者 国岡 正雄

（弊機構 高分子試験・評価センター参事、元国立研究開発法人産業技術総合研究所）

**概要：** 生分解性樹脂、例えば、ポリ乳酸（PLA）は、従来の消耗品用途から、高強度な耐久材への展開が期待されている。耐久材利用には耐候性の付与が必須だが、耐候性処方が生分解性に与える影響は十分に解明されていない。

そこで、本研究では、まずは、PLA の耐候性処方が光劣化や加水分解を抑制する効果を検証するとともに、劣化後の諸物性の変化、加水分解後の生分解挙動を調査した。耐候性処方が劣化、生分解プロセスに及ぼす影響を明らかにすることで、PLA の耐久材用途展開における具体的な評価指針の確立を目指した取り組みについて報告する。

#### 発表 2 「シミュレーションソフトによる予測値と実試験による予測値の補正について」

**概要：** 食品用器具・容器包装からの添加剤の溶出量について、EU では、シミュレーションソフト「SML6」による判定が行われている。一方、消費者庁において、おそれのない量の評価方法のひとつとして、「SML6」の活用が示されている。今回、JCII では、シミュレーションによる予測値と実測値の乖離に着目して、「SML6」の補正機能を用いた予測値の補正事例について紹介する。